

PRESS RELEASE

報道関係各位

2026年3月16日

一般財団法人 神原・ツネイシ文化財団

神原・ツネイシ文化財団『ひろしま国際建築祭2025』で 「せとうちDMOアワード」受賞

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団（広島県福山市、代表者：代表理事 神原勝成）は、このたび一般社団法人せとうち観光推進機構（せとうちDMO）が主催する「せとうちDMOアワード」を受賞いたしました。本アワードはクルーズ、サイクリング、アート、食、宿、地域産品、サステナブルの7つのテーマごとに、瀬戸内7県において最も魅力的な観光コンテンツを表彰するものです。

弊財団は「アート」のテーマにおいて、2025年10月4日（土）より11月30日（日）まで開催した『ひろしま国際建築祭 2025』（以下 建築祭）にてプリツカー建築賞受賞建築家による展覧会や巨匠建築家の自邸の再現展示など、8つの優れたプログラムを展開されている点において高く評価され、アワードを受賞しました。

巨匠や若手建築家による未来を見据えた展示、広島県福山市、尾道市で展示、イベントを実施し、街歩きを通じ、地域との深い繋がりを創出したこと、継続的に3年に一度開催を予定していることも選定の対象となりました。

2026年3月13日（金）に広島国際会議場（広島県広島市/設計：丹下健三）にて開催されたビジネス交流会「せとうちミーティング」のメインプログラムとして、本アワードの受賞者発表、表彰式および受賞者インタビューが実施され、建築祭の総合ディレクター、白井良邦が登壇いたしました。



左から2番目：『ひろしま国際建築祭 2025』総合ディレクター 白井良邦

せとうち DMO とは

せとうちDMOはせとうち全体の観光ブランド化を推進するために瀬戸内海を囲む7県（兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県）が2013年に結成した「瀬戸内ブランド推進連合」をさらに発展させた形で、世界基準で持続可能な観光地経営を目指すフロントランナーとして2016年に新たに創設された組織です。

<https://setouchitourism.or.jp/ja/>

せとうち DMO アワードとは

せとうちDMOアワードは2024年度よりスタートした賞で、せとうちDMOが注力するクルーズ、サイクリング、アート、食、宿、地域産品、サステナブルの7つのテーマごとに、その年度で最も魅力的だった観光コンテンツを表彰するものです。

【受賞概要】

- 賞名：せとうち DMO アワード
- 受賞部門：アート
- 受賞コンテンツ：ひろしま国際建築祭 2025
- 選考理由：国際的に評価の高い日本の建築にフォーカスして、新たなせとうちアートのコンテンツとなる可能性を感じる。子供たちに建築に触れ合う機会をつくるなど先駆的な取組を評価した。
- アワード受賞対象：せとうちエリア（兵庫県・岡山県・広島県・山口県・徳島県・香川県・愛媛県）にて、せとうちDMO7テーマに関連する事業を実施している事業者及び団体/自治体等。
- アワード受賞者の選定方法：せとうちDMOにて候補事業者の選出を行い、外部有識者を加えた選考委員会にてテーマごとに受賞者を決定。
- 評価項目：
 - ・高付加価値層向けのコンテンツか。
 - ・せとうちらしさがあり、自信をもって内外に紹介できるコンテンツか。
 - ・継続して事業が実施できるコンテンツか。
- 選考委員
 - ・せとうちDMOを構成する以下2社の経営メンバー
 - 一般社団法人せとうち観光推進機構
 - 株式会社瀬戸内ブランドコーポレーション
 - ・国土交通省中国運輸局観光部
- 主催：せとうち DMO



せとうち DMO アワード 審査員の声

初開催ながら集客や運営の課題を乗り越え、今後は今治や香川などへのエリア拡大を期待したい。

歴史や風土、技術など多角的な視点から建築に触れる機会を創出し、せとうちで建築文化を体感できる場となっている。

国際的に評価の高い日本建築に焦点を当て、せとうちアートの新たなコンテンツとしての可能性を感じさせるとともに、子どもたちへの建築教育など先駆的な取り組みも高く評価したい。

『ひろしま国際建築祭2025』総合ディレクター 白井良邦 コメント

せとうちエリアから国内外へ向け建築文化を発信する初の試み、『ひろしま国際建築祭 2025』が高く評価され、大変嬉しく思います。この建築祭は3年ごとに開催していきますので、次回開催は2028年秋の予定です。第2回目もぜひご期待いただければと思います。



『ひろしま国際建築祭 2025』の様子。写真左から

著名建築家たちによるトークイベント「プレミアトーク」 photo: Tatsuya Tabii / 『ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家』の会場、尾道市立美術館 / 展示『ナイン・ヴィジョンズ | 日本から世界へ跳躍する9人の建築家』展示風景 photo: Tatsuya Tabii / photo: Tatsuya Tabii / 展示『NEXT ARCHITECTURE | 「建築」でつなぐ新しい未来』学生向けワークショップの様子 photo: Aya Tsutsui / 小学生対象の「大エワークショップ」の様子 photo: Yuka Matsuki

<ひろしま国際建築祭>とは

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団が「建築」で未来の街をつくり、こどもの感性を磨き、地域を活性化させ、地域の“名建築”を未来に残すことをミッションとして掲げ、3年に一度開催する建築文化を発信する祭典で、現在日本各地で開催されている芸術祭の“建築”版のような文化イベントです。

初回の『ひろしま国際建築祭 2025』は、広島県の福山市・尾道市にある7つの会場を中心に8つの展示を2025年10月4日（土）から2025年11月30日（日）（58日間）まで行いました。世界的に活躍する著名建築家はもちろん、未来を担う建築家・作家まで総勢23組が出展。会期中は、建築家による講演会や、子ども向けワークショップなど、多岐にわたるプログラムも開催しました。

<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

一般財団法人神原・ツネイシ文化財団について

『ひろしま国際建築祭2025』を主催する〈神原・ツネイシ文化財団〉は、常石グループ（広島県福山市）がさらなる地域の活性化と豊かな市民生活の実現に向け、建築文化を発信することを目的のひとつとして設立した財団です。常石グループは、海運、造船、商社・エネルギー、環境、ライフ&リゾートの各事業分野で地域社会と連携しながら新たな価値創造を推進しています。また、2025年に新たに設立したグループ社会貢献推進部を通じて、地域貢献活動へのサポートを拡大しています。

神原・ツネイシ文化財団：<https://kambara-tsuneishi-foundation.jp/about/>

常石グループ：<https://www.tsuneishi-g.jp>

お問い合わせ先

◎一般の方向けお問い合わせ先：

ウェブサイトのお問い合わせフォームよりお問い合わせください。

『ひろしま国際建築祭2025』公式サイト

<https://hiroshima-architecture-exhibition.jp/>

◎報道関係者お問い合わせ先：

<ひろしま国際建築祭>事務局（一般財団法人神原・ツネイシ文化財団 内）

メール：pr@kambara-tsuneishi-foundation.jp（担当：守田美奈子）

画像リンク：<https://dtbn.jp/kA2wMM6e>

※画像クレジットをご明記ください。

